

令和 5年 1月「月 報」

1 はじめに



新年明けましておめでとうございます。

自衛隊家族会の皆様におかれましては、新年を清々しく迎えられたこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、陽性者の増減を繰り返しつつ、はや3年目に入りました。この間、ワクチンの接種が進み、移動の制限が緩和され、当初よりは友人・同僚・家族の交流が回復いたしましたが、まだまだ不自由なところが多いのも事実です。

令和5年（2023） 昨年2月に始まったロシアによるウクライナ侵略は、国際社会が「力による現状変更を認めない」との意思を見せる中、解決の兆しが見えず、わが国周辺では北朝鮮によるミサイル発射、中国艦船による海峡通過、中ロ航空機による飛行等々、自衛隊員が一層の緊張感をもって勤務する状態が続いています。

そのような中、防衛省・自衛隊では、昨年12月の月報で一部お知らせしたように、諸外国との共同訓練、統合演習・各自衛隊演習の実施など、わが国防衛のための訓練に、また、防衛交流に、逐次本来の姿を取り戻しつつあります。

本会は、昨年、本部主催の防衛講演会を、コロナ禍のため止むを得ず中止せざるを得ませんでしたが、コロナ禍の合間を縫って、「総会」「新任会長・事務局長等研修会」を実施することができました。

各県自衛隊家族会におかれましても、時期によって「総会」「地域協議会」を実施できたところとそうでないところ、入隊・入校予定者激励会の中止、防衛講話の制約、部隊訪問・隊員への激励の制限など諸活動が十分に出来ずに忸怩たる思いをされたことが多かった一方、機会を見つけて部隊訪問や隊員の激励、再開された記念行事等への参加、家族支援協力の訓練に参加されて成果を積み上げることができたところもあり、有難く、頼もしく思っております。

引き続き油断なく感染予防に留意しつつ、「隊員に最も身近な会」として、防衛意識の普及・高揚、自衛隊が行う諸活動への支援・応援を積極的に行う本来の姿を取り戻したいものです。

各県家族会の皆様には、本年もご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2 防衛省・自衛隊の活動

- (1) 政府は、令和4年12月16日、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境のただ中にあるわが国の安全保障に関する最上位の政策文書となる「**国家安全保障戦略**」、わが国の防衛目標、防衛目標を達成するためのアプローチ及びその手段を包括的に示す「**国家防衛戦略**」、国家防衛戦略に従い、防衛力の整備、維持及び運用を効果的かつ効率的に行うための「**防衛力整備計画**」を決定しました。

防衛力整備計画では、宇宙・サイバー・電磁波を含む全ての領域における能力を有機的に融合し、平時から有事までのあらゆる段階における柔軟かつ戦略的な活動の常時継続的な実施を可能とする多次元統合防衛力を抜本的に強化し、わが国への侵攻が生起する場合には、わが国が主たる責任をもって対処し、同盟国等の支援を受けつつ、これを阻止・排除できるように防衛力を強化することとしており、より早期かつ遠方で進行を阻止・排除するように防衛力を強化することとしています。

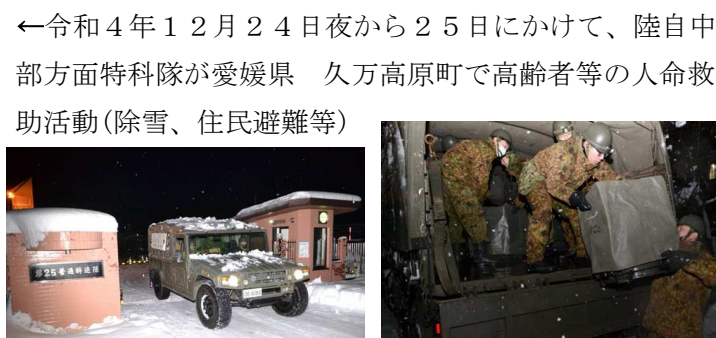
また、国家防衛戦略では「自衛隊員の家族や関係団体等との連携」、防衛力整備計画では「地方公共団体や関係団体等と連携」した**家族支援施策の拡充**が謳われています。

- (2) 災害派遣(統幕HP 他、各部隊HP より)



陸自第2師団は、→

令和4年12月24日(金) 北海道紋別市において大雪に伴う停電関連の災害派遣



←令和4年12月30日、第46普通科連隊(海田市)が
広島県世羅町で発生した鳥インフルエンザに対し殺処分
に係る支援

令和4年12月31日 →
陸自第6師団は、山形県
鶴岡市におけるがけ崩れに
伴う行方不明者の搜索救助
活動



この他にも、雪害／除雪支援等をはじめとする諸活動、有難うございます。

3 家族会の活動

(1) 石川県自衛隊家族会が能登島徒步行進訓練を激励

令和4年12月5日、石川県自衛隊家族会（中 会長）は、金沢駐屯地第14普通科連隊（連隊長 田村秀樹一等陸佐）第2中隊が実施する七尾市能登島を一周する徒步行進訓練を激励しました。

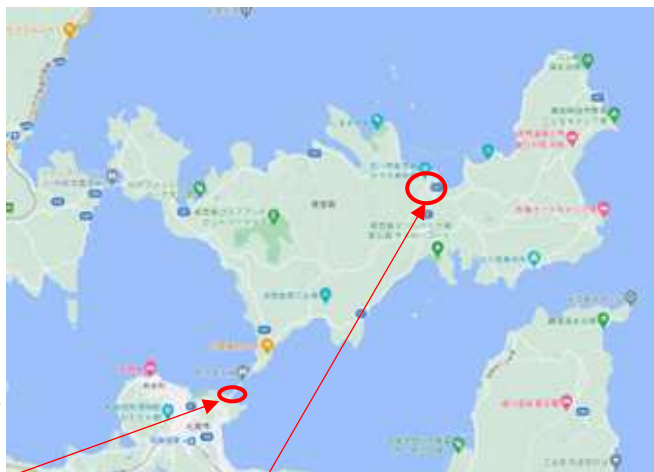


31名の隊員は、降りしきる雨の中、食料や水、無線機など約10キロの荷物を背負い、能登島大橋ロードパークを**出発点**として、約45kmを行進しました。

中会長と地元七尾市自衛隊家族会8人は、**中間点**の道の駅「のとじま」の駐車場で「日本のために頑張ってもらいたい」と激励し、



隊員の士気高揚と安心して任務に従事できるよう激励しました。



(2) 青森市家族会が災害派遣部隊を激励

12月21日、**青森市自衛隊家族会**は、青森県三沢地区での高病原性鳥インフルエンザ発生に係る災害派遣部隊を激励しました。

本件は、過去に発生した高病原性鳥インフルエンザでは国内最大の130万羽に及び、第5普通科連隊（連隊長 降旗1等陸佐）を基幹とし、弘前の第39普通科連隊、八戸の第4地対艦ミサイル連隊、第9後方支援連隊、第9施設大隊及び第101高射特科隊が、12月15



成田青森市家族会会長と
降旗5普連長

日から22日の間、延べ約2500名で、予定の約69万7千9百万羽の殺処分等を終わりました。隊員は、1日約310名で24時間、6時間4交代で活動したそうです。第5普通科連隊長によれば、鳥インフルエンザに対する派遣は今年2回目であり、防護服の着
用から鳥の扱い、手順等に慣れた隊員が多く、作業進捗が早かったとのことでした。

防護服で活動



現地慰問においては青森市自衛隊家族会のほか、青森県自衛隊家族会、青森県隊友会東青支部及び青森県郷友会も隊員の安全と活動の早期終了を祈念致しました。

(3) UNMISS 司令部要員への慰問・激励

令和4年12月21日、UNMISS 司令部要員として1月から現地に派遣される、兵站幕僚の野呂瀬敬子3等陸佐と航空運用幕僚の藤原大樹1等陸尉に対し、「自衛隊の活動支援基金」による慰問・激励品(目録)を阿部事務局長から贈呈し、現地での活躍をお祈りしました。



(4) 家族会活動スナップ

令和4年10月31日、鹿屋市自衛隊家族会石川会長は、→海上自衛隊鹿屋航空基地で執り行われた追悼式に参列しました。



← 取県自衛隊家族会(前田会長)

は、令和4年11月13日、東伯郡湯梨浜町中央公民館講堂において、自衛隊鳥取地方協力本部長村田晶洋1等空佐を講師に迎え「家族会員をどうやって増やすのか?」の講演会を開催しました。

令和4年11月18日、自衛隊兵庫地方協力本部創立 → 66周年記念行事で、伊丹自衛隊家族会の後藤裕太郎相談役と高木清志会長が感謝状を授与されました。



令和4年11月20日～25日の間、道東自衛隊家族会中標津地方支部(相澤支部長)は、戦史研修のために

来道した陸上自衛隊自幹部候補生学校の第103期幹部候補生363名(B・U課程)を激励しました。この研修は、本来、韓国のDMZ地域の研修であったところ、新型コロナウイルス感染症の流行により令和2年から代替え研修として実施されているもので、納沙布岬からの北方領土(国後島)の視察及び大東亜戦争での北方防衛のあり方等について現地史跡を巡りながら国防の第一線を体感させるというものです。

中標津地方支部が中心となり、「協力会」・「隊友会」「連合会」の4団体約10名で、日の丸の小旗及び歓迎看板を掲げての出迎えにより交流を図りました。

中標津町の計らいにより頂いた牛乳で乾杯!! →





令和4年11月30日、花巻市大迫町自衛隊家族会は、岩手地方協力本部北上地域事務所（所長・稲葉1陸尉）の支援を得て航空自衛隊松島基地を研修しました。



令和4年11月26日、陸上自衛隊国分駐屯地で遺族、駐屯地の隊員、近隣部隊長及び霧島市長始め関係者多数列席のもと厳かに駐屯地慰霊祭が執り行われ、霧島市国分自衛隊家族会 大寺会長が参列しました。



第11飛行隊の隊員による、航空祭さながらの臨場感溢れる実況の中、ブルーインパルス of 曲技飛行を見学し、参加者は「手を振るパイロットの姿も観ることができた。」と感激しました。

花巻市大迫町自衛隊家族会は、自衛隊への理解と認知度の向上を目的として、これまで、岩手・八戸駐屯地、三沢・八戸航空基地での基地研修を実施しており、今回は3年ぶりの研修でした。

4 事務局からの連絡・お願い

(1)「DW（ディフェンス・ワールド）23」の購読申込案内

総合募集情報誌2023年版DW23を現在編集しており、今月末に完成予定です。

DW23では、陸自練馬、海自呉、空自百里の各駐屯地／基地を取材し、自衛隊員を目指す人や自衛隊を知りたい方に、最新の情報や写真を多く取り入れて、読みやすくかつわかりやすく編集しています。また、退職自衛官の活躍や自衛隊家族会の活動の紹介は、隊員の募集、家族会加入の誘いに役立てていただけることでしょう。従来と異なり、募集対象年齢の若い順に掲載し、貸費学生の紹介も加える等、「説明時に使いやすく」を目指して編纂いたしました。

是非DW23を募集活動や会員拡大にご活用いただきたくお願い申し上げます。

申し込みは、先月お送りした「ディフェンス・ワールド2023年版購読申込書」を使用して、メール、またはFAX等でご連絡をお願い致します。



【DW23表紙】

なお会員への販売価格は**500円／冊**、申込期限は**令和5年1月31日**です。

(2) 退職後の任期制自衛官の消防吏員としての活用について（再掲載）

任期制自衛官の就職援護の魅力化施策のうち、公務員の再就職拡大に関する消防吏員としての活用について、昨年6月に市ヶ谷で行われた「募集協力者会同」で、陸幕募集・援護課から説明があったところですが、宮下副会長より、入隊予定者激励会等が予定される今こそ、地元を離れることを躊躇する本人やご家族の背中をもう一押しする意味で、「防衛省が任期満了退職予定者のうち消防士への採用を希望する者に対し、自衛官としての真摯な勤務実績を証明する資料を交付し、消防庁は、消防士への採用が円滑に為されるように、各消防本部に情報提供する。」という制度があることを情報提供すべし！！とのお話がありましたので、お知らせします。

この制度は、陸幕募援第1号（4. 1. 5）「防衛省及び消防庁の相互連携に関する申し合せにおける就職の援助に関する業務処理要領について（通達）」により、令和4年4月1日から適用されておりますので、近傍の自衛隊地方協力本部でご確認の上、本人及び親御さんへのアドバイスに、10月「月報」掲載の「自衛隊新卒」と併せて活用してください。陸幕の資料によれば「自衛官としての真摯な勤務実績の証明」は中隊長が発行できるとのことです。尚、消防吏員のうち、定年制自衛官は消防ヘリ操縦士、任期制自衛官は消防士への道が開けています。

(3) 北方領土返還要求運動全国大会の開催について

令和5年北方領土返還要求運動全国大会は、2月7日（火）11:30～12:45の間、国立劇場（千代田区）にて開催されます。今回も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策のため、入場者数を制限するとともに短い時間で実施します。

首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城）の各家族会の皆様には、それぞれ5名の出席をお願い致します。（入場整理券は別途送らせていただきます。※警備のため、入場整理券がない方は入場できませんのでご了承ください。）

出席できない皆様には、昨年同様にY o u T u b eにより大会の様子を全国配信する予定ですので、皆様のところでご覧いただけます。

細部決まり次第、別途ご連絡いたします。

※ 「北方領土返還要求署名用紙」の希望数を11月30日締め切りでお寄せいただいておりますところ、3月中にご希望通り、自衛隊地方協力本部等に送らせていただきますので、宜しくお願いします。

以上